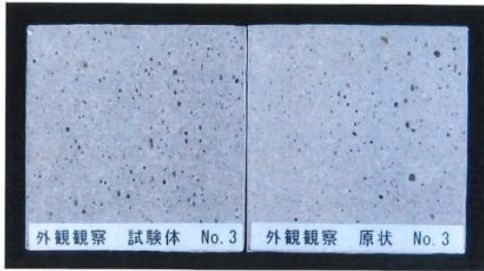


含浸深さ(mm)		1.7	グレードA
透水抑制率(%)	透水抑制率=100 - 透湿比	91	グレードA
吸水抑制率(%)	吸水抑制率=100 - 吸水比	93	グレードA
透湿比(%)		87	グレードA
中性化抑制率(%)	中性化抑制率=100 - 中性化深さ比	82	グレードA
塩化物イオン浸透抑制率(%)	塩化物イオン浸透抑制率=100 - 塩化物イオン浸透深さ比	91	グレードA

試験機関：一般財団法人日本建築総合試験所、試験体：JSCE-K 571-2013に定めるモルタル基板



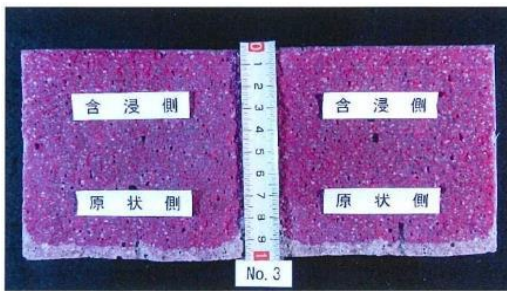
c. 試験体番号3

写真-2 外観観察試験後の試験体



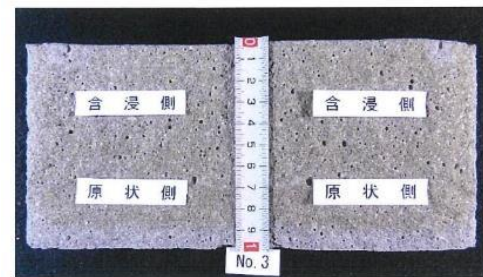
c. 試験体番号3

写真-2 含浸深さ試験後の試験体



c. 試験体番号3

写真-2 中性化に対する抵抗性試験後の試験体



c. 試験体番号3

写真-2 塩化物イオン浸透に対する抵抗性試験後の試験体

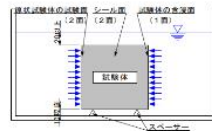
制定年月：平成17年3月

名称：表面含浸材の試験方法（案）
(JSCE-K571-2005)
Test methods of surface penetrants for concrete structures
試験体

⑦塩化物イオン浸透に対する抵抗性試験

a) 図に示すように、試験体の含浸面が側面になるようにして、試験体の上面が水面下20mm以上になるように、温度23±2℃の塩分溶液に浸せしめて、塩化物イオン浸透試験を行う。その際、試験体の下面が試験用容器底面から10mm程度になるようにスパーサーを設置し、試験試験体との間隔は30mm以上となるようにして浸せきする。なお、試験期間中は、試験容器を密封するなどして、塩分溶液の濃度が変化しないようにする。

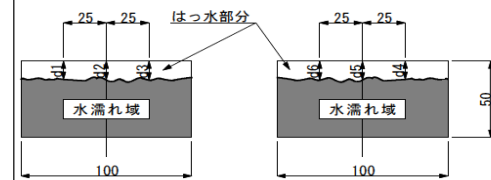
b) 試験開始時から63日後に、試験用容器から試験体を取り出し、湿布を用いて表面の塩分溶液を除去する。その後、JIS A 1171の7.8（塩化物イオン浸透深さ試験）に準拠し、試験体の含浸面を2分割するように、試験体を割裂して、割裂面の含浸面およびそれに対向する面（原状試験体の試験面）からの塩化物イオン浸透深さを、ノギスを用いて0.1mmまで測定し、それぞれ、試験体および原状試験体の塩化物イオン浸透深さとする。試験体および原状試験体の塩化物イオン浸透深さは、対面する割裂面で各々3箇所、合計6箇所測定し、その平均値を算出して、四捨五入によって、小数点以下1けたの値に丸めて、1試験体の塩化物イオン浸透深さとする。塩化物イオン浸透深さは、3個の試験体の平均で示す。また、試験体および原状試験体の塩化物イオン浸透深さから、塩化物イオン浸透深さ比を算出して、四捨五入によって、整数に丸めて示す。



$$\text{塩化物イオン浸透深さ比(\%)} = \frac{\text{試験体の塩化物イオン浸透深さ}}{\text{原状試験体の塩化物イオン浸透深さ}} \times 100$$

⑧含浸深さ試験

試験体の含浸面を2分割するように試験体を割裂して、2分割した試験体を、1分間水に浸せきして取り出し、割裂面のはっ水している部分の含浸面からの深さをシラン系表面含浸材の含浸深さとして測定する。含浸深さの測定位置は、右図に示すように、試験体の割裂面の中心、およびその中心から25mmの位置の片面3箇所とし、対面する割裂面で合計6箇所の含浸深さを、ノギスを用いて0.1mmの単位で測定し、その平均値を算出して、四捨五入によって、小数点以下1けたの値に丸めて、1試験体の含浸深さとする。含浸深さは、3個の試験体の平均値で示す。



深く含浸させない理由

IZW.Shieldは、

- ・マイナス40℃でも凍結しない
- ・2時間養生で疎水層を形成する

IZW.Guardを併用することで、より強固な疎水層を確保

IZW.Shieldの含浸深さは1.7mmとなっています。

空隙の多いコンクリートに深く含浸させるのではなく、極表面層の疎水層を重要視して開発しています。

深く含浸させても水等の劣化因子の侵入を許せば寒冷地ではスケーリングの原因となります。